

I01-01

研究報告 第413号

特別支援学校のセンターとしての役割をより充実させる  
ための障害別基礎研修コンテンツの整備と充実  
－視覚障害，聴覚障害，言語障害，病弱・身体虚弱教育の基礎コンテンツの作成－

平成26年3月

千葉県総合教育センター

# 目次

## 目次

1	主題設定の理由	1
2	研究計画	2
	（1）研究の目的	2
	（2）研究の内容	2
	（3）研究の方法	2
3	本年度の研究概要	3
	（1）視覚障害	5
	（2）聴覚障害	6
	（3）言語障害	7
	（4）病弱・身体虚弱	8
4	研究のまとめ	9
	主な参考文献・引用文献	9
	研究協力員一覧	9
	資料	10

## 特別支援学校のセンターとしての役割をより充実させるための 障害別基礎研修コンテンツの整備と充実

－視覚障害，聴覚障害，言語障害，病弱・身体虚弱教育の基礎コンテンツの作成－

千葉県総合教育センター 特別支援教育部  
研究指導主事 相川 利江子 石井 順子  
指導主事 藺牟田 明

### 1 主題設定の理由

平成18年の学校教育法の改正において，特別支援学校が地域の特別支援教育のセンター的機能を果たすことが明確に位置付けられた。平成19年3月に策定された「千葉県特別支援教育推進基本計画」では，特別支援学校のセンター的機能の向上として，特別支援学校の専門性の向上を図るとともに，特別支援学校が，幼稚園・小学校・中学校・高等学校等に対する支援を行うに当たっては，個々の障害特性に応じた指導・支援機能とあわせて，教員に対する研修協力機能も求めている。

また，平成22年3月に出された「千葉県教職員研修体系」において，今後10年間を見通した課題として，経験豊富な教員の大量退職に伴い増加する若手教員等の育成や，社会の変化に伴う新しい課題，教員の幼児児童生徒と向き合う時間の確保，研修場所・時期の集中化の解消が出された。そして，研修の見直しの方向性として，A「一極集中研修」から「地域に根ざした研修」へ，B「受身的画一研修」から「能動的自立研修」へ，C「県教育委員会中心の研修」から「外部との連携を強めた研修」への3点が示された。

これに先がけて平成21年度より県総合教育センター特別支援教育部の基礎研修事業としては，知的障害，自閉症，発達障害，肢体不自由については，「基礎から学ぶ研修」事業を，県下を教育事務所ごとの6地域に区分し，それぞれの地域の特別支援学校を会場として実施してきた。具体的には，当センター特別支援教育部で基礎的な研修内容を基礎研修コンテンツとして作成し，担当する特別支援学校にCD-Rで配付し，各校はこの基礎研修コンテンツを研修内容として実施してきた。このように，前述の「千葉県教職員研修体系」に基づき研修の見直しをし，特別支援学校のセンター的機能の向上もあわせて研修の整備を図ってきた。

また，この基礎研修コンテンツは「千葉県特別支援教育推進基本計画」にのっとり，地域の教員等への研修だけでなく，特別支援学校の校内新任者研修で校内の教員が基礎的な知識・技能を高め，特別支援教育の専門性を高めるための研修に活用したり，特別支援教育コーディネーターが地域の小学校・中学校・高等学校の支援に活用したりもしている。

しかし，上記以外の視覚障害，聴覚障害，病弱・身体虚弱教育の3障害の基礎的研修については，千葉盲学校，千葉聾学校，四街道特別支援学校，仁戸名特別支援学校で独自に地域の小学校・中学校等向けに障害理解等のために実施したり，言語障害については，当センターにおいて，「基礎から学ぶ言語障害」研修を実施したりしている現状である。

研修参加者のアンケート調査によると，より具体的，基礎的で実際の指導に役立つ研修内容を

求める意見が挙げられており、研修成果を実践につなげたいという要望が多い。通常の学級にも、視覚障害、聴覚障害、言語障害や病気を抱えている児童生徒が在籍することがあり、各特別支援学校にはこれらの障害を併せ有する重複障害の児童生徒が増えているため、受け持つ担任からの障害理解や障害に応じた指導方法等に対する研修のニーズが高い。また、特別支援学校のセンター的機能として、幼稚園・小学校・中学校・高等学校等に対する支援を行うに当たっては、一人一人の障害特性に応じた指導・支援のための研修協力機能が求められている。一方で、県内のことばの教室においては経験の浅い担当者が増加していることから、すぐに実践に結びつくような研修体制作りのために基礎的研修の充実が必要とされている。

以上により、視覚障害、聴覚障害、言語障害、病弱・身体虚弱教育の研修の整備は喫緊の課題であり、特別支援学校のセンター的機能の充実のためにも、急務である。

そこで、本調査研究において、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進に向けて、さらに視覚障害、聴覚障害、言語障害、病弱・身体虚弱教育の基礎的な研修内容を基礎研修コンテンツとして作成する。

これらの新しい基礎研修コンテンツを作成して加えることで、県内全域の特別支援学校においてすでに実施している知的障害、自閉症、発達障害、肢体不自由とあわせて、全障害種の研修ができるようになり、基礎研修の整備と充実を図ることができる。そして、県内全域の特別支援学校において基礎研修の整備と充実を図れば、特別支援学校の専門性の向上、センター的機能の充実につながると考える。また、小学校・中学校における特別支援学級、通級指導教室の専門性向上にも活かすことができると考える。

## 2 研究計画

### (1) 研究の目的

- ① 視覚障害、聴覚障害、言語障害、病弱・身体虚弱教育の基礎研修コンテンツを作成し、障害別基礎研修の充実を図る。
- ② 基礎研修コンテンツの障害種を増やし、より地域の多様なニーズに応じた研修を提供することができることにより、特別支援学校のセンター的機能をさらに充実させる。

### (2) 研究の内容

視覚、聴覚、言語障害、病弱・身体虚弱教育の基礎的な研修事項を整理し、内容を検討し、基礎研修コンテンツを作成する。

### (3) 研究の方法

#### ① 研究組織

県内の特別支援学校や通級指導教室に所属する高い専門的知識を有する教諭に研究協力員を依頼する。

研究協力員の構成としては、県立特別支援学校（視覚）教諭2名、県立特別支援学校（聴覚）教諭2名、公立小学校難聴学級教諭1名、公立小学校言語通級教室教諭3名、県立特別支援学校（病弱）教諭2名の計10名とする。

## ② 研究協力員会議の年間活動計画

研究協力員会議を年間6回実施して、図1のような進め方で研修コンテンツ（視覚障害、聴覚障害、言語障害、病弱・身体虚弱教育）の作成を行う。

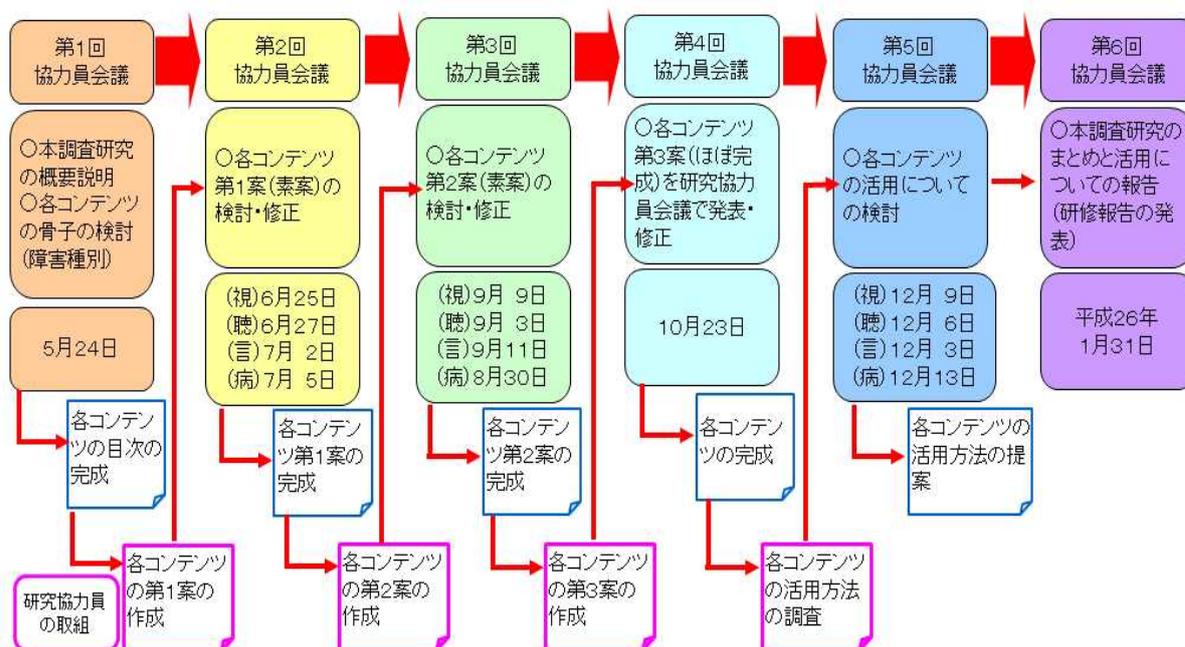


図1 研究協力員会議の年間活動計画

## 3 本年度の研究概要

従来の基礎研修コンテンツの構成を参考に、図2のように①障害理解の在り方、②障害についての知識理解、③障害に応じた教育体制と教育課程、④自立活動を中心とした指導の方法や工夫、⑤センター的機能として地域との連携を、盛り込むこととした。

また、体験活動を随所に盛り込み、能動的研修ができるよう考えた。

各障害別のコンテンツは、八つのコンテンツで構成し、研修会で必要な所を一部だけ取り出して研修できるように、1コンテンツを80分で作成することとした。

全体的にスライドや図を多く取り入れることによって、見やすく、分かりやすく工夫し、理解できるように構成した。

全ての障害別コンテンツに、通常の学級に在籍している児童生徒の指導・支援にも役立つように、学校生活で子どもが困っていることや、それに対する配慮等を、具体例を挙げて研修できるようにした。

コンテンツ1は、全障害種において、「障害理解の在り方について」を共通研修として位置付けている。障害観や障害理解の変遷について、ICFの概念図や国や県の施策の変遷を用いて説明している。また、自立活動の内容について具体的に説明し、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の在り方について理解を図る。コンテンツ1を踏まえて、障害ごとにコンテンツ2からコンテンツ8を研修していくことで、それぞれの障害の特性や支援について理解を深めていけるような構成となっている。

	視覚障害	聴覚障害	言語障害	病弱・身体虚弱
1	障害理解の在り方について	障害理解の在り方について	障害理解の在り方について	障害理解の在り方について
2	視覚障害とは	聴覚障害とは	言語障害とは	病弱・身体虚弱教育について
3	主な眼疾患と疑似体験	聴覚障害教育について	構音障害	主な病気の説明と健康面への配慮
4	教育体制と教育課程	教育体制と教育課程	指導の実際（発音の指導）	教育体制と教育課程
5	自立活動の指導	指導内容・方法の工夫	吃音	病気の子どもの悩みや不安と支援
6	重複障害児の指導	自立活動の指導Ⅰ	言語発達の遅れ	自立活動について
7	教材・教具の工夫と教育環境の整備	自立活動の指導Ⅱ	教育の体制	指導内容・方法の工夫
8	地域支援とセンタ－的機能	地域支援と今日的な課題	言語障害のある子どもにかかわる人たちの連携	病弱・身体虚弱教育における課題

図2 基礎研修コンテンツの構成

次に、本年度作成した障害別基礎研修コンテンツの概要について述べる。

(1) 視覚障害 (表1, 図3)

コンテンツ2では、視覚障害についての知識として見る仕組みや視力、視野、色覚の概要について説明した。視覚障害のコンテンツ全体の導入として、基礎的理解が図れるようにした。

コンテンツ3では、視覚障害の特別支援学校に在籍する児童生徒の主な眼疾患について簡単に説明するとともに、盲児や弱視児のさまざまな見え方について、シミュレーションレンズを使つての弱視の疑似体験やアイマスクを使つての全盲の疑似体験を取り入れた。見えないということ、見えにくいということでのどのような困難が生じるのかについて知識と体験の両面から理解を深めることをねらった。

コンテンツ4では、視覚障害児の教育の場として、視覚に障害のある幼児児童生徒に対しての教育制度について概説し、千葉盲学校の取組として、各学部の取組、指導の要点、キャリア教育、早期教育について具体例をあげながら説明した。千葉盲学校の幼児児童生徒の学校生活を紹介することで、指導や支援の場を具体的にイメージできるようにした。

コンテンツ5, 6, 7で活用されている教材・教具や教室環境について、写真などを活用して紹介することとした。盲、弱視のそれぞれの場合を説明し、見えないということを他の感覚を使つてどう補うか、残存する視力をどう活用していくかについて、学習面や生活面から理解できるようにした。

コンテンツ8では、千葉盲学校の地域支援の紹介と、今日的課題として千葉盲学校が取り組んでいる視覚認知に困難のある幼児児童生徒への支援について紹介することとした。

1	障害理解の在り方について
2	視覚障害とは 1 視覚障害とは 2 ものを見る仕組み 3 視機能とは
3	主な眼疾患と疑似体験 1 主な眼疾患と見え方の特徴 2 視覚障害体験
4	視覚障害児と教育の場 1 視覚障害児が学ぶ場 2 千葉盲学校の各部の教育と教育課程 3 教科書について 4 視覚障害教育の指導法 5 進路指導とキャリア教育 6 早期教育
5	視覚障害のある幼児児童生徒のための自立活動の指導 1 医学的, 心理的, 教育的な立場からの実態把握 2 自立活動における指導内容 3 自立活動における具体的な指導内容
6	視覚障害のある重複障害児の指導 1 視覚障害のある重複障害児の理解と指導 2 実態把握の基本的視点 3 実態把握から考える生活場面の記録の活用 4 重複障害と視覚障害 5 重複障害の視覚活用 6 重複障害児の主な教育内容, 指導内容 7 肢体不自由を伴う重複障害児の指導
7	視覚障害を補うための教材・教具の工夫と教育環境の整備 1 盲児と弱視児の使用する教科書 2 補償機器や教材・教具の種類とその活用 3 情報機器の種類とその活用 4 見やすい学習環境, 見やすい教材・教具の活用 5 見やすい学習環境・校内環境の条件の整備 6 見やすい教材・教具の工夫
8	地域支援とセンター的機能 1 千葉盲学校の地域支援とセンター的機能 2 視覚認知障害の理解

表1 視覚障害コンテンツの構成

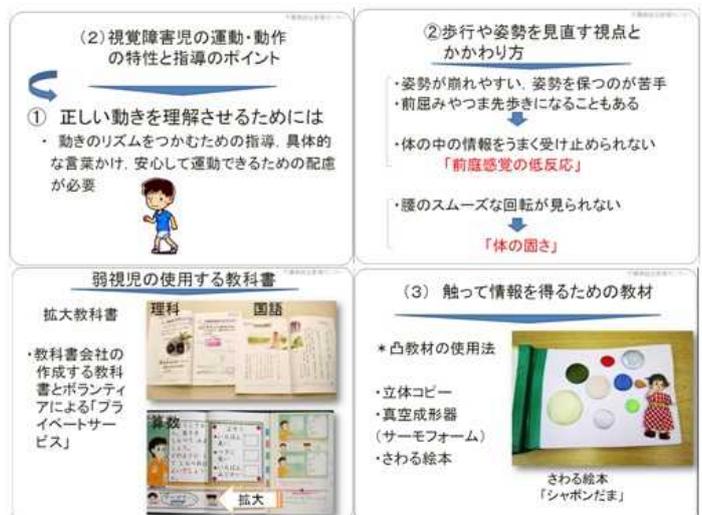


図3 視覚障害の基礎コンテンツの一例

(2) 聴覚障害 (表 2, 図 4)

コンテンツ 2 では, 聴覚障害についての基礎的な知識理解として聴力レベルや聴覚障害の種類等について説明した。一口に聴覚に障害があるといっても聴こえ方や困難さは様々であることが理解できるようにした。また, 難聴の疑似体験を行うことで聴こえない, 聴こえにくいということによって生じる困難さについて心理的な面を含めて実感できるようにした。

コンテンツ 3, 4 では, 聴覚に障害のある幼児児童生徒に対しての教育制度について概説し, 障害の程度による教育の場や支援方法の違いについてそれぞれ説明した。また, 千葉聾学校の各学部を取組, 指導の要点について具体例をあげながら説明し, 幼児期から高等部卒業の時期までの 15 年間の教育を俯瞰できるようにした。研修時間に応じて学校紹介 DVD も活用する。

コンテンツ 5 では, 聴覚特別支援学校独自の学習環境やコミュニケーション手段について写真や実技体験をしながら学ぶ。それぞれ障害の程度に応じた教育の指導内容について説明した。

コンテンツ 6, 7 では, 聴覚特別支援学校の自立活動の内容として, 聴覚障害児の言語発達を踏まえた言語指導, 障害認識, 補聴器の管理等について触れた。通常の学級に在籍する聴覚障害児への支援も視野に入れ, 話しかけ方や補聴器の日常の管理等について初歩的な段階から理解できるようにした。

コンテンツ 8 では, 千葉聾学校の地域支援の紹介と, 連携・ネットワークづくりを, また, 今日の課題として情報保障等について説明した。

1	障害理解の在り方について
2	聴覚障害とは 1 耳のしくみ 2 聴覚障害の種類 3 聴覚障害の発見 (1) 聴力検査の種類 (2) きこえとことばの関係 (3) 補聴器 4 聴覚障害とは 5 難聴が理解されにくい理由 〈難聴疑似体験〉
3	聴覚障害児と教育の場(教育体制と教育課程) 1 定義と意義 2 教育の場 3 それぞれの教育の場での体制と教育課程 (1) 通級による指導 (2) 通常の学級での配慮事項 (3) 特別支援学校(聾学校)
4	千葉聾学校の教育 ※DVD「銀杏の詩」
5	聴覚障害教育の指導内容・方法の工夫 1 学習環境について 2 コミュニケーションについて いろいろなコミュニケーション手段 〈実技・体験〉 ・キュードスピーチ ・手話 ・指文字
6	聴覚障害児の自立活動の指導 I 1 言語発達の過程と言語指導について 2 障害認識について 3 補聴器について
7	聴覚障害児の自立活動の指導 II 1 聴覚活用について 〈体験〉聴力測定 2 発音指導について 〈体験〉教材を使った発音指導
8	聴覚障害教育における課題 1 地域支援(特別支援学校のセンター的機能) (1) 教育相談や指導・支援 (2) 教師への研修支援 (3) 関係機関との連携 2 今日の課題 (1) 保健師との連携 (2) 情報保障 (3) 中学生・高校生・大学生への支援 (4) インクルーシブ教育に向かって

表2 聴覚障害コンテンツの構成

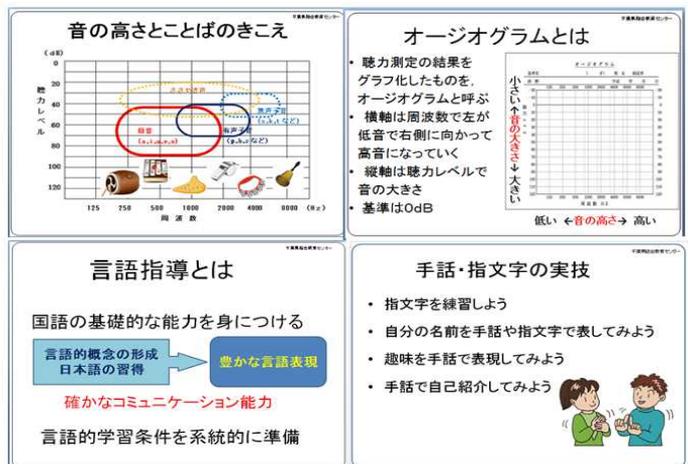


図4 聴覚障害の基礎研修コンテンツの一例

(3) 言語障害 (表 3, 図 5)

コンテンツ 2 では, コンテンツ 3 以降を概括し, 全体のガイダンスとして位置づけ, 言語障害について種類や原因などの基礎的知識や, 必要な支援についての一般的な考え方について理解できるよう説明した。

コンテンツ 3 では, 構音の誤りの種類とその見分け方について解説し, 発音検査等のアセスメントの方法について理解を深めるようにした。発音の変化について分類し, 具体例を挙げて発音の誤りを説明しやすいように工夫した。

コンテンツ 4 では, 発音の改善として発音の指導方法について説明した。正しく発音するために必要な舌の動きについてアニメーションを入れて分かりやすくした。

コンテンツ 5 では, 吃音についての基礎知識とことばの教室での指導・支援の方法について具体的に説明した。治ることが難しいとされる吃音について, 本人のみならず保護者への対応についても説明した。

コンテンツ 6 では, 言語発達の遅れについて解説し, ことばの教室での具体的な指導内容について説明した。言語発達の違いに関する学習支援についても説明し, 具体的な実践についても触れるようにした。

コンテンツ 7 では, 言語障害児教育について説明した上で, ことばの教室での取組について解説した。特別支援学級や通級による指導について理解をすることで通常の学級との連携の在り方について研修できるようにした。実態把握から個別の指導計画の作成, 実践, 評価等について研修できるようにした。

コンテンツ 8 では, ことばの教室の担当としての役割について実態把握から心を支える支援, 関係機関との連携を通じた支援について解説した。

1	障害理解の在り方について
2	言語障害とは 1 定義 2 アセスメント 3 ことばの教室での指導・支援の実際 (発音指導, 吃音指導, ことばの遅れについての指導)
3	構音障害とは 1 構音障害の種類 2 アセスメント
4	指導の実際 (発音の指導) 〈演習〉 力行, 夕行, サ行, ラ行の発声指導, 歪みに対する指導 など
5	吃音について 1 吃音とは 2 吃音の症状 3 ことばの教室での指導・支援
6	言語発達の遅れ 1 ことばの発達の遅れ 2 ことばの教室での指導 (個別の指導計画) 3 読み書きの指導 4 教科補充指導
7	言語障害教育の体制 1 特別支援学級 2 通級による指導 (巡回指導を含む) ・ 個別の指導計画の立案 ・ 自立活動を踏まえた指導
8	言語障害のある子どもにかかわる人たちの連携 1 言語障害教育担当教員の役割 2 心を支える支援 (カウンセリング) 3 通常の学級との連携 4 保護者との連携 5 医療との連携

表 3 言語障害コンテンツの構成



図 5 言語障害の基礎研修コンテンツの一例

(4) 病弱・身体虚弱教育（表4，図6）

コンテンツ2では，病弱・身体虚弱教育の定義や教育の制度等について説明した。

コンテンツ3では，病弱特別支援学校に在籍している児童生徒の主な病気について説明した。①病気の概要，②子ども達が困っていること，③支援のポイントなどについて要点を押さえて簡潔に説明することで，研修が必要な病気について選択して使用することもできるようにした。

コンテンツ4では，病気のある児童生徒に対して特別支援学校の教育課程や教育体制と，病気のある児童生徒の行事への取組等について説明する。VTR等で学校の様子についても紹介した。

コンテンツ5では，病弱の子どもの不安に対してどう寄り添っていくかについて説明した。後半は児童生徒の作った詩から心境を考えたり，VTRをとおして支援の実際を見たりする。

コンテンツ6では，病弱児の自立活動について実態把握や個別の指導計画の立案，取組について説明した。後半の実践例の紹介を含め，具体例を入れて込んで状況をイメージしやすいようにした。

コンテンツ7では，病弱・身体虚弱教育の指導内容・方法の工夫として，病気の状態や治療による学習の空白に対しての工夫やICT等支援機器の教材・教具について具体例を入れて分かりやすく紹介した。

コンテンツ8では，病弱・身体虚弱教育における課題について，地域支援の現状という視点から説明した。

1	障害理解の在り方について
2	病弱・身体虚弱教育について 1 病弱・身体虚弱教育の定義 2 病弱・身体虚弱教育の意義 3 教育の場，仕組み，制度 4 学校・病院との連携
3	病気について 1 気管支喘息 2 腎臓疾患 3 心臓病 4 筋ジストロフィー 5 てんかん 6 糖尿病 7 白血病 8 肥満 9 脳腫瘍 10 重症心身障害
4	病弱・身体虚弱教育の教育体制と教育課程 1 教育課程の編成にあたって 2 教育体制について 3 学校行事について
5	病気の子どもの悩みや不安と支援 1 病弱の子どもの悩みや不安 2 本人への支援 3 子どもを取り巻く環境の調整 4 実践例
6	病弱児の自立活動について 1 病弱教育の自立活動とは 2 実態把握 3 個別の指導計画 4 実践例
7	病弱・身体虚弱教育の指導内容・方法の工夫 1 授業形態の工夫 2 単元配列の工夫 3 ICT活用 4 体験や経験を豊かにするための教材・教具の工夫
8	病弱・身体虚弱教育における課題 1 病弱・身体虚弱教育における課題 2 病気のある子どもたちのキャリア教育 3 病気のある子どもたちへの教育相談と地域支援

表4 病弱・身体虚弱教育コンテンツの構成

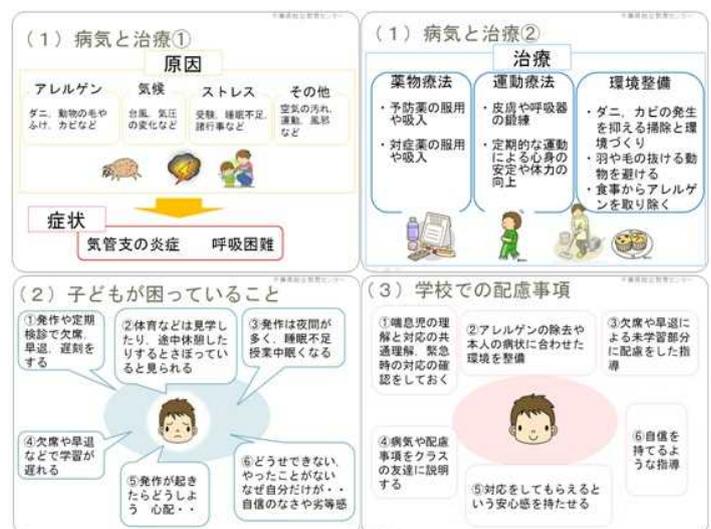


図6 病弱・身体虚弱教育の基礎コンテンツの一例

#### 4 研究のまとめ

四つの障害種について研究協力員会議を経て、基礎研修コンテンツを作成することができた。これにより全障害種の基礎研修コンテンツを整備することができ、障害別基礎研修事業の基盤をつくることができた。

今後はこの研修内容が、これから専門性をつけていきたいと考えている研修参加者の立場から、内容が妥当であるか、基礎研修として難しくなりすぎていないか等を検証する必要がある。研修講師及び研修参加者の意見も組み入れて、さらに内容を精査していく必要がある。そして、多くの場で活用し、実践に活かせるよう試行しながら内容の充実を図っていきたい。

具体的には、次年度は、今回作成した基礎研修コンテンツを研究協力員が各校の校内研修で活用したり、当センターで企画している「言語障害研修」「実践力アップ研修－『見ること』に困難さがある子の指導」や「実践力アップ研修－『聞くこと』に困難さがある子の指導－」等の研修事業で活用したりして試行する。研修参加者や講師に対する調査から課題を整理し、よりよい内容へと精査していきたい。

将来的には、特別支援学級の新任担当者研修や専門研修にも活用し、特別支援学級、通級指導教室の担任の専門性向上にも活かしたり、各特別支援学校の専門性を高めるための校内研修や、特別支援教育コーディネーターの地域の幼稚園・小学校・中学校・高等学校等への障害理解啓発に活用したりもできると考える。

### 主な参考文献，引用文献

#### 1 主な参考文献

- ・特別支援教育指導資料 千葉県教育委員会 平成 25 年 3 月
- ・特別支援教育の実践の手引 平成 25 年度版 千葉県総合教育センター 平成 25 年 4 月
- ・文部科学省「特別支援学校学習指導要領 自立活動編」平成 21 年

#### 2 引用文献

- ・千葉県特別支援教育推進基本計画 千葉県教育委員会 平成 19 年 3 月策定
- ・千葉県教職員研修体系 千葉県教育委員会 平成 22 年 3 月策定

### 研究協力員一覧

視覚障害	県立千葉盲学校	教諭	田中 敦子
	同	教諭	杉山 理恵子
聴覚障害	県立千葉聾学校	教諭	田原 佳子
	同	教諭	山尾 真希
言語障害	船橋市立船橋小学校	教諭	山下 薫
	船橋市立高根台第三小学校	教諭	櫻井 正二郎
	柏市立旭小学校	教諭	遊佐 規子
	香取市立府馬小学校	教諭	渡辺 芳江
病弱・身体虚弱	県立四街道特別支援学校	教諭	角田 哲哉
	県立仁戸名特別支援学校	教諭	小澤 典夫

テーマ 特別支援学校のセンターとしての役割をより充実させるための障害別基礎研修  
コンテンツの整備と充実

－視覚障害，聴覚障害，言語障害，病弱・身体虚弱教育の基礎コンテンツの作成－

研究対象校 小学校，中学校，高等学校，特別支援学校

研究領域 特別支援教育

視覚障害，聴覚障害，言語障害，病弱・身体虚弱教育における基礎的研修内容を整理して，基礎的な研修内容（コンテンツ）を作成することで，障害別基礎コンテンツの整備と充実を図る。

これにより特別支援学校が地域のニーズに応じた研修を提供できるようにし，センターとしての役割をより充実させていけるようにする。

【検索語】 特別支援教育，視覚障害，聴覚障害，言語障害，病弱・身体虚弱，  
基礎研修，専門性の向上

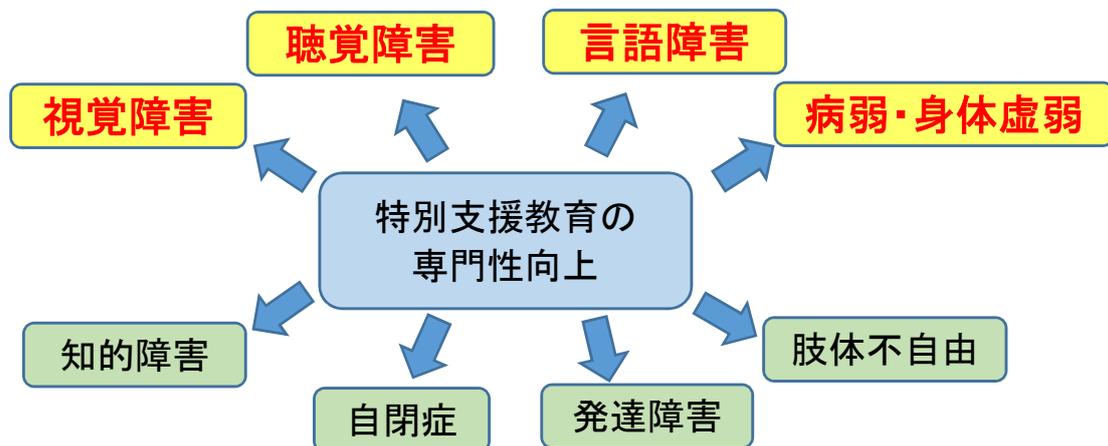
## 資料

### 特別支援学校のセンターとしての役割をより充実させるための障害別基礎研修コンテンツの整備と充実

－視覚障害，聴覚障害，言語障害，病弱・身体虚弱教育の基礎コンテンツの作成－

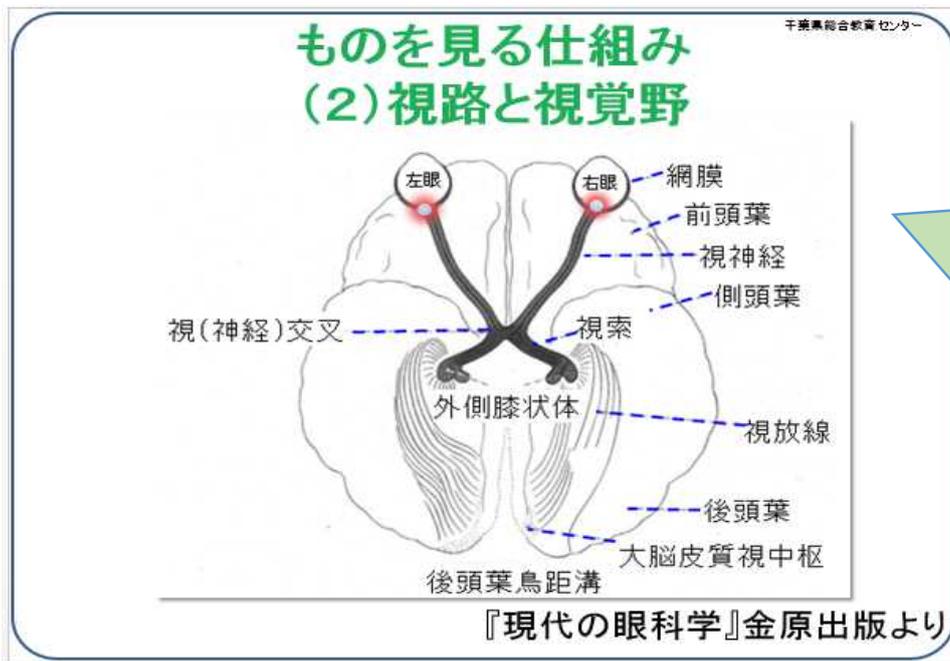
従来の知的障害，自閉症，発達障害，肢体不自由の基礎研修コンテンツに加えて、さらに視覚障害，聴覚障害，言語障害，病弱・身体虚弱教育の基礎研修コンテンツを作成しました。

特別支援学校，特別支援学級で指導経験の浅い教員や，通常の学級での障害のある子の指導に携わる教員向けの研修として活用できるように，障害理解のための基礎的事項について講話や体験をとおして理解できるようになっています。これにより，障害別基礎研修コンテンツの整備と充実を図りました。



※ コンテンツを活用して研修をしてみたいという方は，当センターまでご相談ください。  
千葉県総合教育センター 特別支援教育部 担当者 TEL 043(207)6023

# 視覚障害コンテンツ



視覚障害についての知識として見る仕組みや視力、視野、色覚の概要について説明した

視覚障害のコンテンツ全体の導入として、基礎的理解が図れるようにした

疑似体験を取り入れて、見えないということ、見にくいということでのどのような困難さが生じるのかについて知識と体験の両面から理解を深めるようにした

千葉盲学校の幼児児童生徒の学校生活や指導や教室環境、教材・教具を写真を使って具体的に紹介した

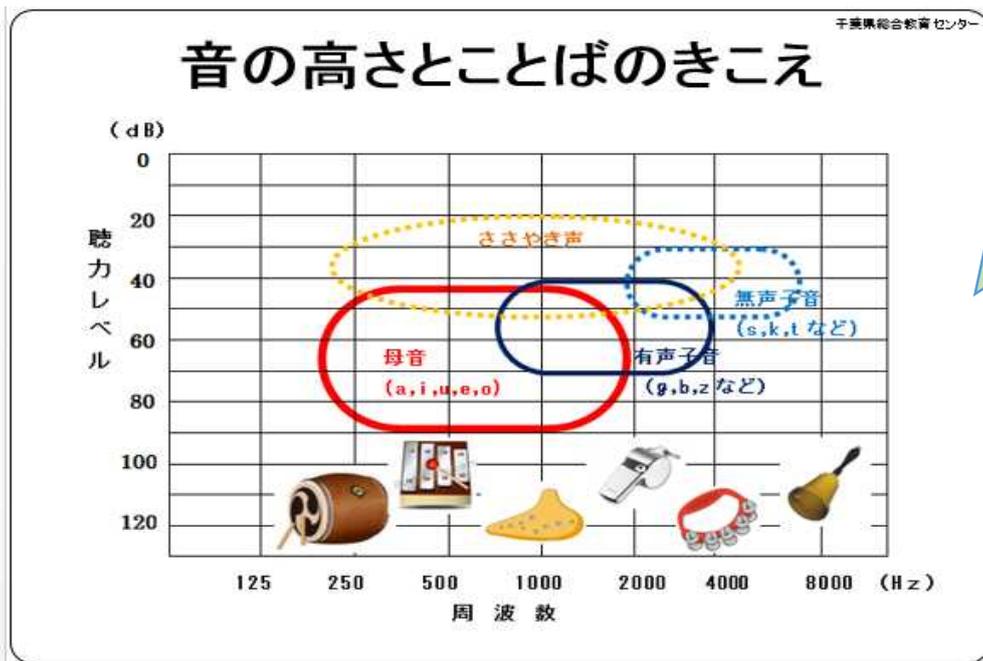


## コンテンツの内容

1	障害理解の在り方について
2	視覚障害について
3	主な眼疾患と疑似体験
4	視覚障害児と教育の場
5	視覚障害児のための自立活動の指導
6	視覚障害のある重複障害児の指導
7	教材・教具の工夫と教育環境の整備
8	地域支援とセンター的機能

教材・教具や教室環境について、写真などで紹介し、盲、弱視のそれぞれの場合について、見えないということを他の感覚を使ってどう補うか、残存する視力を活用していくかについて、学習面、生活面から理解できるようにした。

# 聴覚障害コンテンツ



実際に周波数ごとの音を聞いて、聞こえの違いがイメージしやすいようにし、一口に聴覚に障害があるといっても聞こえ方や困難さは様々であることが理解できるようにした

また、難聴の疑似体験を行うことで聞こえない、聞こえにくいということで生じる困難さについて心理的な面を含めて実感できるようにした

聴覚特別支援学校(聾学校)独自の学習環境やコミュニケーション手段について、写真や実技体験をしながら、能動的に学ぶことができるようにした

通常の学級に在籍する聴覚障害児への支援も視野に入れ、話しかけ方や補聴器の日常の管理等について、初歩的な段階から理解できるようにした

## 手話・指文字の実技

- 指文字を練習しよう
- 自分の名前を手話や指文字で表してみよう
- 趣味を手話で表現してみよう
- 手話で自己紹介してみよう



## 補聴器の管理

- 補聴器は汗に弱い!
- 精密機械のため、水分や湿気で金属がさびび、音が聞こえなくなることがある
- 汗をかいて音が聞こえなくなったときは・・・
  - 補聴器本体を乾いた布でよく拭く
  - 電池室の中は綿棒で
  - 乾燥ケースに入れる



## コンテンツの内容

1	障害理解の在り方について
2	聴覚障害とは
3	聴覚障害児と教育の場 教育体制と教育課程
4	千葉聾学校の教育
5	聴覚障害教育の指導内容・ 方法の工夫
6	聴覚障害児の自立活動Ⅰ
7	聴覚障害児の自立活動Ⅱ
8	聴覚障害教育における課題

一口に聴覚に障害があるといっても聞こえ方や困難さは様々であることを講話や疑似体験をとおして心理的な面を含めて理解できるようにした。また、通常の学級に在籍する聴覚障害児への支援も視野に入れ、話しかけ方や補聴器の日常の管理等について初歩的な段階から理解できるようにした。

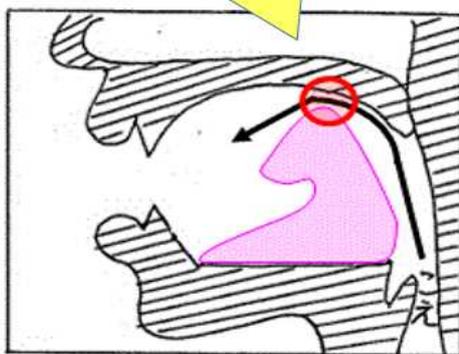
# 言語障害コンテンツ

## ① カ行音・ガ行音

k・g音の構音点  
水なしうがいから誘導



奥舌がのど元に接する

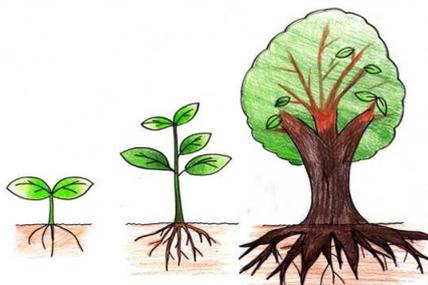


発音の改善として発音の指導方法について説明した  
正しく発音するために必要な舌の動きについてアニメーションを入れて視覚的に捉え、理解しやすいように解説した

ことばの発達を理解した上で、言語発達の遅れについて理解を深め、ことばの教室での具体的な指導内容について説明し、具体的な実践例で理解しやすくした

特別支援学級や通級による指導について理解を深め、実態把握から個別の指導計画の作成、実践、評価等について研修できるようにした

ことばが育つには 一木にたとえとー



ことばの表出  
(話ことば)

ことばの理解

体験・経験して  
わかること

### 1 特別支援教育の対象の概念図



### コンテンツの内容

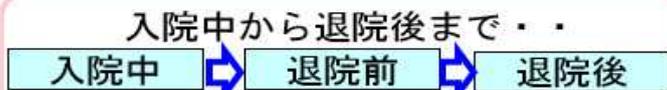
1	障害理解の在り方について
2	言語障害とは
3	構音障害とは
4	指導の実際(発音の指導)
5	吃音について
6	言語発達の遅れ
7	言語障害教育の体制
8	言語障害の子にかかわる人たちの連携

言語障害の種類等について解説し、アセスメントの方法や指導法について具体例を挙げて説明した。また、特別支援学級や通級による指導について理解をすることで通常の学級との連携の在り方について研修できるようにし、実態把握から個別の指導計画の作成、実践、評価等について研修できるようにした。

# 病弱・身体虚弱コンテンツ

千葉県総合教育センター

## (3) 学校での配慮事項



子どもに寄り添い、心を支える

プライバシーにも十分配慮

病気のことについて周囲にどのように伝えるか、本人と保護者と良く確認して決めていく



先生や友達から「支えられている」「分かってもらえている」という実感が、不安やショックから、病気と向き合う勇気になる

主な病気について説明した  
①病気の概要、②子ども達が困っていること、③支援のポイントなどについて要点を押さえて簡潔に説明し、通常の学級でできる配慮について理解を図るようにした

病弱の子どもへの不安に対してどう寄り添っていくかについて説明し、児童生徒の作った詩や短歌から心境を考え、子どもの気持ちを理解できるようにした

病弱教育を受けるための転入・転出のシステムを解説したり、病弱教育関係機関へ転学した際に重要な連携について説明したりして、理解を深めるようにした

千葉県総合教育センター

中学生の作品から

7年間 僕の野球よどこへい

食べたいなでも塩分 高すぎる

味薄い 僕の塩分 6グラム

戻りたい 皆の待ってる あの場合へ

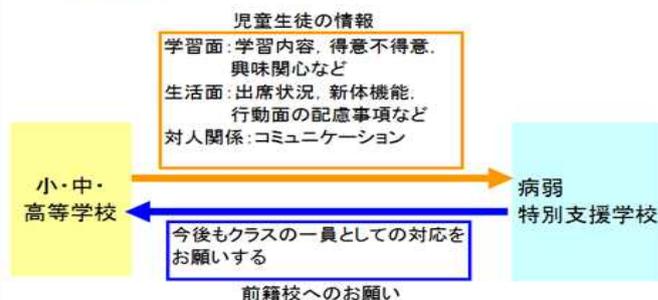
雨の夜 しずくの音は 子守歌

退院して 空きベッドに 君がいない

ブレドニン 骨も心もずたずただ

千葉県総合教育センター

### 在籍していた学校との連携 (転入時)



### コンテンツの内容

1	障害理解の在り方について
2	病弱・身体虚弱教育について
3	病気について
4	病弱・身体虚弱教育の教育課程・教育体制
5	病気の子どもの悩みや不安と支援
6	病弱児の自立活動について
7	病弱・身体虚弱教育の指導内容・方法の工夫
8	病弱・身体虚弱教育における課題

病気のある児童生徒に対して、治療や生活上の配慮事項について理解し、子どもへの不安に対してどう寄り添っていくかについて子どもの立場に立って考えていく。後半は、実践例の紹介や学習の空白に対する指導方法や教材・教具について具体例を入れて紹介した。

## 研究報告 第413号

---

---

平成26年3月31日

編集発行者 千葉県総合教育センター所長

山田 龍雄

発行所 千葉県総合教育センター

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2丁目13番

TEL 043 (276) 1166

FAX 043 (272) 5128

特別支援教育部

〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台5-10-2

TEL 043 (207) 6023

---

---